

市長が行く

No.94

茂原市長 田中 豊彦

ドクターへりについて

先日撮影が茂原でも行われ、話題となつたテレビドラマ「コード・ブルー」を見られた方は、ドクターへりの活躍に心躍らせたことと思います。ドクターへりは、ドラマでも描かれていたように、救急搬送だけが目的ではなく、現場に救急医療に精通した医師や看護師を派遣します。そのため、初期医療開始までの時間は短縮されますし、患者の状態を安定させて迅速に高度医療機関へ運ぶことが可能となります。

今、千葉県には、2機のドクターへりがあり、1機は日本医科大学千葉北総病院に、もう1機は君津中央病院に配置されています。ちなみにこの2機のドクターへりは、アツードアなら30分で行き来でき、3次医療には欠かせない役目を果たしています。

千葉県にドクターへりのシステムが導入されたのは平成13年で、他に比べると比較的

早い段階だったと記憶しております。その当時、ドクターへりの飛行には、気象条件が大いに影響するため、雪の多い東北地方や北海道などは運用が難しいといわれていました。それでも少しづつ増加して、今では（平成29年3月現在）全国41道府県に51機配備されるようになってきています（北海道には4機あります）。ただ全国的に見ても、2機所有しているところはまだそれほど多くはなく、千葉県は恵まれている方だと思います。

この地域の医療過疎問題について、再びこのコラムでも書いてきましたが、ドクターへりは、それを解決する一翼をやすく、また大きなマイナス要因として、夜間飛行ができるという問題があります。

昨年一年間の、長生地域のドクターへり要請は、全部で95件でした。茂原市内で、へ

リポートとして利用される場所は、川中島下水処理場、富士見公園、本納スポーツ広場、五郷小学校、萩原小学校、豊岡小学校、緑ヶ丘小学校、二宮小学校、本納中学校などです。また主な搬送先は、君津中央病院、県循環器病センター、北総病院、東千葉メディカルセンター、亀田総合病院、塩田記念病院、県救急医療センター、帝京大学ちば総合医療センター、千葉大学医学部附属病院などです。

本来であれば、ドクターへりに頼らなくとも十分な救急医療が受けられることが望ましいのです。この地域のより一層の医療の充実を、国や県にさらに要望していきます。もう何回もしていますけどね。

*1機あたり年間約2億円の維持費がかかり、また、世界的に見ると、アメリカでは約800機、ドイツでは約80機保有しているとのことです。日本でも増やす必要があるのでは